

国際理事会が開催されます

近畿大学 生物理工学部・IPPS-J 国際理事 仁藤 伸昌



国際理事会と年次大会

国際植物増殖者会議の国際理事会が2012年10月25日(木)と26日(金)に浜松市で開催されます。わが国での国際理事会開催は2004年に続き2回目です。前回は京都、滋賀、愛知、岐阜、三重の各県を回り浜松で日本支部大会に合流しました。この旅行期間中に国際理事会を開催しました。

また、今年のIPPS日本支部の年次大会は10月27日(土)と28日(日)に浜松市アクトシ

ティー研修交流センターで開催されます。1年に1度皆様方と一堂に会す機会ですのでふるってご参加下さい。

今回も国際理事会の一行は、日本支部のメンバーとの交流を深めるために日本支部の年次大会に合わせて浜松で合流します。今年の年次大会はいつもと違った雰囲気になるかと思しますので、これも楽しみにご参加下さい。海外のメンバーと交流を深める機会にさせていただきたいです。



日本の伝統的な接木の技を披露



説明を熱心に聞くメンバー

■ プレコンファレンスツアー

I P P Sは世界に8支部あり、毎年持ち回りで国際理事会を開催しています。国際理事会の開催に先立ちプレコンファレンスツアーが行われます。言うまでもなく、「プレ」は「前」、コンファレンスは「会議」で会議前の旅行です。国際理事会への参加者は開催国の園芸生産の現場を見学し、I P P Sの理念である知識の共有と意見の交換を行います。現地視察の中には日本の文化と伝統を知ってもらうための観光旅行なども含まれます。理事の中にはご夫妻で参加する方もおり、総勢約25名になる予定です。

多くの参加者は、10月20日(土)に成田に到着し、10月21日(日)から京成バラ園、千葉大学環境センター、ぼんさい村の見学、東京観光などをします。その後静岡県に入り、箱根観光などを経て掛川、浜松に到着します。途中、静岡県内の先進的な園芸生産地やナーセリーを見学します。

訪問地、到着時間等の詳細は今後日本支部のホームページなどでお知らせしますので皆様方のお近くに寄るときは、是非参加され交流を深めてください。

■ 国際理事会

国際理事会は、10月25日(木)と26日(金)に浜松のアクトシティーで開催されます。各支部の国際理事がI P P Sの運用について議論します。規約改正、予算、ブラックブックの発行、名誉会員の推薦、今後の方針など詳細な会議が開かれます。会議は終日行われますが、同伴者は会議には出席できません。この方々の日程についてご提案とご協力をいただければ大変ありがたいのです。よろしくご申し上げます。

■ 皆様方のご協力を

国際理事会の開催は、われわれ日本支部の会員にとっても大きな行事となります。日本支部の活動を国際的に知っていただくために皆様方のご協力をお願いします。

■ 国際理事会の雰囲気

2004年のプレコンファレンスツアーの写真は、日本支部のホームページを開き「活動履歴」を開くと見ることができます。



稲沢の侗芳樹園場にて



仕立物の植木に興味津々のメンバー



浜松の夜

第19回静岡大会 & IPPS 国際理事会・ツアーへのお誘い

IPPS-J 第19回静岡大会実行委員長 速水 正弘
静岡県立農林大学校



既に御存じの方も多いと思いますが、今年度のIPPS-J第19回大会を、静岡県浜松市で10月27日(土)、28日(日)に開催します。

約1週間前から世界各支部の理事の方も日本にお見えになり、国際理事会・ツアーを実施しており、終了後、本大会にも参加される予定になっています。是非、国内会員の多くの方にもご参加いただき、国際交流を図るとともに、大会を盛り上げていただければ幸いです。

1日目は、浜松駅のすぐ側のアクトシティー浜松研修交流センターで、研究発表会、総会、特別講演を行います。

特別講演は、古い会員にはお馴染みの方もおられると思いますが、静岡大学名誉教授大石惇先生に、中国新疆ウイグル自治区で現地の研究機関と合同で調査された結果をもとに、『果樹のふるさと 西域』というタイトルで、お話をさせていただきます。

特別講演が終わった後、会場を浜松市内に移して、盛大に懇親会を行う予定です。また、懇親会ではオークションも行いますので、是非御出品をお願いします。

2日目の見学会では、静岡県立農林大学校(茶工場、イチゴ・花き類、温室メロンの栽培とメロンの試食)、JAとぴあ浜松浜北緑花木センター(苗木販売と日本庭園)、浜松市フルーツパーク(静岡県で栽培されている果樹の展示エリアと熱帯果樹を主体としたエリアの散策)等を予定しています。

また、1週間前から始まっている国際理事会ツアーは、26日に全ての日程が終了し、26日の夜にウエルカム・パーティーを浜松市内で開催します(懇親会とは別の会場)。せっかくの機会でもありますので、是非前日から浜松においてになり、国際交流を進めてみてはいかがでしょうか。



Invitation to the 19th Annual conference in Shizuoka & IPPS international Board of Directors and their tour.

Masahiro Hayami

Japan Regional 19th annual conference will be held on October 27th (Sat.) and 28th (Sun.) in Hamamatsu city, Shizuoka pref. Japan.

The First Day, we will have presentations, a general meeting, and a special lecture at Act City Hamamatsu, training & exchange center near the Hamamatsu Station.

At the special lecture, Mr. Atsushi Oishi emeritus professor of Shizuoka University will talk about "The home country (roots) of a fruit tree—called Saiiki (Western Regions)" based on results investigated jointly with the research institution of a spot in China Xinjiang Uygur Autonomous Region.

After it's done, we will have a party and auction.

The Second Day, we plan to take you to Shizuoka prefectural agriculture and forestry college (Tea factory, Strawberry, Melon and Flowers), JA Topia Hamamatsu Hamakita [Green Flower & Tree] center (young tree sales and a Japanese garden), Hamamatsu fruit park (walk in the exhibition area of fruit trees currently grown in Shizuoka prefecture and the area where the tropical fruit trees are grown.).

Please come to Hamamatsu and enjoy this international exchange?

IPPS 国際植物増殖者会議 ニュージーランドでの研修と現地交流

本間 有喜

4月22日～5月14日までの3週間、ニュージーランドで滞在し、4月26～29日に協議会に参加しました。

22日、成田空港よりオークランドへ向け出発し、翌日到着後25日まで Terry Hatch のところで滞在しました。24日は知り合いの有機農家で一日働かせてもらいました。Terry は、環境コンサルタントの仕事をしていて、荒地に植物を植えることや、植物を植えることの重要性を訴える仕事をしていました。Terry と会った後、見えるニュージーランドの膨大な放牧地は、私自身、農業者側から見てなんともいえない気持ちになりました。

26日オークランド空港から南島のQueenstown 空港へ移動し、協議会の会場であるCromwell に移動しました。協議会では多くのメンバーが集まり、活動報告の発表がありました。また、ワークショップや現地見学等が行われ、IPPSの活

動を知るきっかけとなりました。

協議会終了後、私はWaimateのGrant Haymanのところへ移動しました。主に小さい苗木を中心に扱っており、また自己の輸送トラックを持っていて、ニュージーランド各地へ苗木を輸送する特徴がありました。次の日はその輸送トラックに乗り、朝、苗を積んでChristchurchへ向かいました。

ChristchurchではSouthern Woodsで5月1～4日まで滞在しました。そこではポット詰めやカッティング、除草などをしました。野菜の仕事をしていた私にとって、あまりやったことがない仕事だったので勉強になりました。また、苗木をつくることは長い期間と手間がかかることを改めて知りました。そのボスであるMurrayがChristchurchの街に連れて行ってくれました。Christchurchは2011年に大地震が直撃した場所であり、今なお瓦礫の山と空き



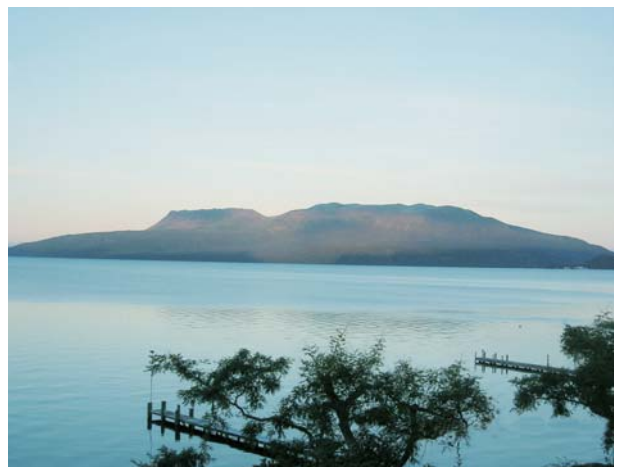
ビルで街のほとんどは閉鎖されていました。

5日、Christchurch から Wellington へ移動しました。Wellington では Glenys Evans のところでお世話になりました。6日 Wellington の観光をして、7日 Palmerston North の Eddie Welsh のところに行きました。Eddie は様々なビジネスをしていたのですが、その一つに週に2回、有機野菜のセットをリユースバッグに入れて提供するというビジネスを5年ほど前から始めていました。火曜日は13の顧客がいて、約15種類ぐらいの野菜と果物を詰め合わせ、近くの大学に配達しにいき、とても興味深い体験となりました。

9日 Taupo の Philip Smith のところへ移動しました。次の日は山から集めてきた木の種を枝からとる仕事をしました。種は買うものと思っていた私にとっては、こうして原産の種を集め、増やしていくことは重要なことだと感じました。午後は Taupo の町を案内してもらい、Taupo は火山が多いことから電力供給のほとんどは地熱発電でまかなわれていると聞きました。ニュージーランドは水力発電がもっとも多く、それだけ自然に恵まれている国であると知りました。

11日、Hamilton の Dave and Shirley Ogilvy へ移動しました。知り合いの野菜や花の苗を取り扱う苗木屋にも連れてってもらいました。次の日は Tarawera 湖の Robert の別荘と一緒に泊めてもらいました。

この3週間いろんな人たちと会うことができ、いろんな場所にも連れて行ってもらいました。本当に親切にしてもらい、とても感謝しています。私は農業分野で働いてきたので、分野は異なるものでしたが、興味深いものでした。これからなんらかの形で、植物に関わることができていければと思っています。



イチジク

【多様な品種の紹介・(緊急特集)イチジクの宿敵、株枯病】

(株)山陽農園

代表取締役

大森 直樹



IPPS NEWS LETTER 投稿のお仕事をいただきありがとうございます。私の専門は果樹、しかも果樹苗木ですが、書く仕事となると鉢植えを中心にした家庭園芸向けのものが主です。今回は、せっかくいただいた機会なので、本業の苗木屋として近年取り組んでいるイチジク株枯病対策のための接ぎ木苗木生産について紹介させていただきます。

イチジクの株枯病(かぶがれびょう)

「植えた苗が2～3年で突然枯れてしまった。原因は？」

最近、園芸相談でイチジクに関して同じような問い合わせが増えてきました。「植えてから10数年ぐらいになるイチジクの木を抜いて2年前に同じ場所に再度イチジクを植えました。植付け1年目はそこそこに伸びましたが、2年目からは新芽も伸びず、葉も黄色味をおび、やがては枯れていく。」といった症状です。この原因については、元来イチジクの根は広



株枯病による成木の萎凋、枝の枯死

く浅くはびこるために、乾燥や過湿に弱く、土壤水分の影響で枯れることや、土中に生存する根きり虫やコガネムシの幼虫などにより根が食べられてしまったために枯れることも考えられます。ただ、最近の研究では、これまで上記のような原因とされて枯れていたものも、以前イチジクを植えていた同じ場所に植えたもの場合は、株枯菌といわれる病原菌が土壌中に生息しそれによって株枯菌が植つけた苗を罹病^{りびょう}させたことにより枯死したものが多いたことが発見されました。あろうことか、この病気は古い産地を主体に全国のイチジク産地に広がっており、対策が急務となっています。しかもこの病気は産地だけの問題ではなく、家庭園芸でも古くから植えられたイチジクでは罹病している可能性が強いため、植替え時には注意が必要といえます。

病徴と被害

株枯病に感染したイチジクは、定植2～3年頃から株の片主枝または全体の新梢が萎凋し、進行すると下葉が黄色くなり枯れ込みが見られるようになり、最後は生育期間中でありながらも落葉枯死してしまいます。

伝 染

株枯病の伝染経路としては、菌に汚染された苗木からの持ち込みが最も多いとされています。いったん菌を持ち込むと、土壌も汚染されることになるので、汚染された同じ場所にイチジクの菌に汚染されていない苗を植えつけたとしても、土壌伝染によって病気は再発します。また、罹病樹の病班上につくられた胞子が雨水によって土壌表面に流れ周辺の土壌をさらに汚染します。さらにアイノキクイムシという虫によって虫媒伝染もします。病気の分散時期は4月上旬～5月上旬と7月中旬～8月中旬の2回です。株枯菌をもったキクイムシが樹勢の弱った株や傷のある株の主枝や主幹部分に入り込みことで病気が伝染していると考えられています。



主枝の萎凋・枯死症状



防除対策・未発病地での対策

まずは、罹病していない健全な苗を入手確保することが最も重要な対策です。種苗業者の段階で未汚染圃場が確認でき、未発病地の健全株から穂木を入手したことが確認できないものは導入しないことが大事です。

また、キクイムシによる伝染を防ぐため、主枝や株自体を傷つけないことも重要です。その点、福岡県では、管理しやすく傷が付きにくい平棚仕立てが早くから導入されています。

発病地での対策

発病が確認されたものは、菌の蔓延を防ぐため、ただちに根まで掘り上げ除去焼却します。また、発病樹の根の部分の土は出来るだけ取り除き、無病土を客土することも有効ですが、菌がどの程度広がっているかもわかりにくく、作業は重労働を伴うため、完全な対策とはいえません。

イチジク株枯病抵抗性台木を用いた接木苗木を用いた対策

今のところ、絶対的な対策がない株枯病ですが、産地である愛知、滋賀、大阪、和歌山、兵庫、福岡や地元岡山の研究機関で研究された中、効果的な対策といわれているのが、株枯菌に抵抗性のある台木利用の接木苗木利用です。各試験機関で色々な品種を用いて試験研究が行われ、現在のところもっとも有効性が見られる品種がイスキア・ブラック (Ischia Black) という品種を用いたものですが、以外に昨年岡山の試験場から発表された試験データではイスキア・ホワイト (Ischia White) やカリフォルニア・ブラック (California Black) についても有効であるといわれています。これ以外の実験に使用された品種としては、セレスト、ネグローネなどありますが、いずれも抵抗性が低い評価のため淘汰されました。上記台木用3品種を用いて実用化されている対



イチジク苗木 接木部分

応栽培品種は、国内産地で90%以上を占める、ドーフィンと早生日本種（蓬莱柿）の2品種のみ接木されたものですが、産地にとっては今のところこの2品種で十分といえます。

その後の研究により、台木の接木部までの長さによっても、抵抗性に強弱が起ることがわかっており、地上部から20～40センチのところで接木されたものは、それよりも短い接木のものよりも罹病の

可能性が少ないことがわかってきました。今後、イチジク苗木の産地導入については、接木苗木の利用が主になることは間違いありません。

ただし、本格的に導入されて5～6年の年月しか経過していないので、今のところ接木苗木の導入によって完全に株枯病から守ることが出来るとは言えず、特に汚染土壌への導入については、新しい土壌の客土、無病苗木の導入、キクイムシの防除などとの併用を忘れてはなりません。

最後に、究極の株枯病から守るための手段として有効なものに、鉢栽培が上げられます。土壌にクリーンなものを用い、ネットなどで木全体を覆うことによって害虫の侵入を防ぎやすい鉢植えも、家庭園芸の現場だけでなく産地でも今後の取り組むべき課題といえます。



病原菌フリーの母樹を作成中



Ceylon Foliage (Pvt) Ltd.

株式会社ハクサン
代表取締役社長 高臣 映生



Ceylon Foliage was established 1st of June in 1992 by Hakusan Co., Ltd, 20 years ago as the foreign investment under the B.O.I. project by Sri Lankan government.

The purpose for this company establishment was to produce foliage plants on the field.

At those days, Japan was very good market for *Dracaena massangeana* in a large pot.

Most of the planting materials had been imported from Central American countries, such as Guatemala, Honduras, Costa Rica and Nicaragua. But there were a lot of problem. It was a long distance by refer container and took many days. It caused quality problem and many cases for claim.

We have decided to find alternative places in Asia but it was not so easy to get the land involving government as the project. After traveling many countries, such as Malaysia, Philippines, Indonesia, Thailand, and so on, we reached to Sri Lanka.

Fortunately, Sri Lanka has had already quite developed Foliage production in the plantation size and had many years of experience for exporting.

Hakusan Co., Ltd. had a joint project with CTC Foliage and established Ceylon Foliage



A part of the view of 100 ha *Dracaena massangeana* Plantation

(PVT) Ltd. and started to plant *D. massangeana* in the field. According to the project plan, 33 ha in a year planted 330,000 plants and continued for three years. Total field was 100 ha. We exported in total 52 containers (by 40 foot refer container) per year in a peak year.

In 2010, *Dracaena massangeana* 100 ha project was accomplished with it' s terminal destination. The consumer' s trend has been changed and the market preference was changed from big pots to smaller pots.

In 2000, we set up highland operation for supplying quality cuttings to meet the demand for healthy, standardized elite cuttings.



The Boralanda facilities is located on 1,300 m in altitude and in the area of Uva area, where the high quality of Ceylon tea is produced. The climate is quite well for the most of the plants and humidity is quite low through whole year, ca. 40-45%. Night temperature in average is 15 Celsius and day temperature is 25 Celsius.

Our main Crops are Schlumbergera, Chrysanthemum, Poinsettias, New Guinea Impatiens, Pelargonium and Argylanthemum. Our main export countries are Denmark, Holland and Japan.

Boralanda Nursery use mostly coconut pith and coir, which are well matured or products from Jiffy Sri Lanka. Jiffy Sri Lanka products are well proved by most of European greenhouse growers. Recently, we also developed the products for the Japanese markets for both purpose, professional use and hobby use. Those products were certified by International standardize organization, which means well reliable for growing plants and sustainable in the quality.

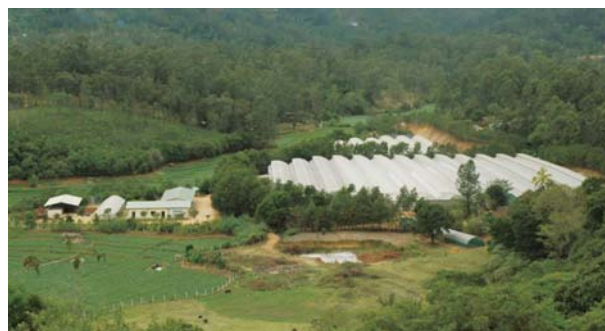
According to the climatic condition in Uva are, we are planning to expand the facilities. It is more urgent subject for the European growers and will be same as Japanese floriculture industry.

The labor cost in such countries won' t be getting lower but contrary become higher and higher and any kind of tax also will be higher to maintain social situation well. The growers have to find their outsourcing to convenient countries.

Sri Lanka is one of such countries who can support high costing countries. Sri Lanka is one of rare country who can supply education for free and medication system is also free for the nation. It means there is a high literature rate and can hire well educated working people. Mostly infrastructure are well organized, however there is still needed in some area.

Sri Lanka announced the ethnic war was over in 2011 and has started huge project for developing the country where the war had sheltered the any peace work for rural area.

So, Ceylon Foliage will continuously contribute the area and people and supply high quality planting materials to Japan, Europe and all other countries. (Written by Teruo Takatomi, Managing Director and president of Hakusan Co., Ltd. and Hakusan Group.)



Boralanda Greenhouses (1,300 m sea level)



Inside of the greenhouses. Facilities are all imported from French Company (Richel)

To keep clean is essence. Better than using chemicals!!

Electricity is supplied by public but protected by our generator.



Harvesting cuttings. Workers are supplied uniform which must be washed in the company to protect the invention of diseases from outside.

Knives are changed every pot.

IPPS-J 第八期理事・監事・役員・理事代理名簿 (2011.1.1~2012.12.31)

	役職	氏名	担当	会社・所属
1	会長	鉄村 琢哉		宮崎大学 農学部 教授
2	副会長	鈴木 隆博	HP、静岡大会	(株)浜松花き 代表取締役
3	副会長	大橋 広明	愛媛大会	愛媛大学農学部 生物資源学科 助教授
4	事務・会計理事	南出 幹生		南出(株) 代表取締役
5	編集理事	富田 正徳		(株)アイエイアイ エコファーム部
6	国際理事	仁藤 伸昌	BlackBook	近畿大学 生物理工学部 教授
7	国際理事代理	内田 恵介		グリーンクラフト 代表
8	理事	石井 克明	国際理事会	森林総合研究所 森林バイオ研究センター センター長
9	理事	佐藤 伸吾	IPPS活性化	(株)花街道 代表取締役
10	理事	藤森 忠雄	ニュースレター	(株)赤塚植物園 常務執行役員 兼 社長室長 渉外担当
11	理事	水谷 朱美	国際理事会	(株)ベルディ 代表取締役
12	監事	遠藤 弘志		揖斐川工業(株) アグリバイオ部 取締役アグリバイオ部長
13	国際交流推進委員	大森 直樹	IPPS活性化	(株)山陽農園 代表取締役
14	年史編纂委員	佐藤 伸吾		(株)花街道代 代表取締役
15	理事代理	青山 兼人	国際理事会	兼弥産業(株) 事業本部 取締役部長
16	理事代理	速水 正弘	静岡大会	静岡県立農林大学校 教務課 主幹
17	理事代理	小池 安比古		東京農業大学 農学部 教授

編集後記

6月上旬、アメリカのワシントン州へ昔の仲間と出掛けました。昔の印象では、結構、暑い気候だろうと勝手に推測して、そのような服装で出掛けました。

ところがシアトルへ到着してみると午後の気温が10℃。明日は雪が降るかもしれないとのこと。現地の人に聞くと、最近の気候は何か異常だとしきりにこぼしていました。

明日、夜のマリナーズの試合を見るためには冬用のジャンパーが必要とのことで、百貨店へ出掛けて、定価\$250のジャンパーを\$49で購入しました。マリナーズはイチローの活躍により、6人の投手を投入し、ノーヒット・ノーランの1-0で勝利しました。その夜、シアトルの街は大変に沸いていました。

翌日、シアトルから西へバスを走らすと次第に砂

漠に近い気候になります。その地域はコロンビア川の水を上手に利用した、アメリカ最大のリンゴの産地です。しかし、最近リンゴの値段の低迷でサクランボやブドウに作付転換されているとのこと。サクランボは日本への輸出が好調とのこと、又カリフォルニア・ワインが好評なために、カリフォルニアのワイン会社がこの地域へ進出してきてワインの醸造をしているとの話でした。

気候の変化や社会の農産物需要の変化により、産地の移動に伴い、人の移動が大変に激しく、町が衰退したり、繁栄したりしている現象を目の当たりにしました。気候の変動は人間社会へ大きな影響を及ぼすことを再認識した旅でした。

ニュースレター担当：藤森忠雄



ファーマーズマーケットの入口



ファーマーズマーケットの野菜コーナー